

春日部福音自由教会 2020年6月14日 11:00 同時配信礼拝(ライブ配信礼拝)
聖書 新約聖書 マルコの福音書 7章24節~30節
説教「イエス様との対話」小野信一牧師

おはようございます。2020年の6月の14日、第2日曜日を迎えました。今 聖書が朗読されました。マルコの福音書7章24節から30節まで「イエス様との対話」と題して御言葉を取り次がさせていただきます。もう1度共にお祈りを捧げましょう。

I. 始めの祈り

天の父なる神様。今 私たちはあなたの前に出ております。日曜日の朝、週の初めの日、イエス様がよみがえられた日曜日、あなたが生きておられることを覚えてあなたに礼拝を捧げます。今それぞれの場所で、あなたの前に携えてきた私たちの身体とこの命を あなたがお受け取りくださり、あなたを礼拝する一人一人を祝福してくださいように。今 御言葉が朗読されました。御言葉によって私たちにお語りください。主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン。

II. 異邦人の女の願い

一人の女性が来て願います。イエス様の足元に来て願います。「娘を助けてください。私の幼い娘が悪い霊に憑かれています。娘を助けてください。解放してください。」そう願いました。イエス様のことを『聞いて、来て、ひれ伏した』と書いてあります。「私の娘は今 悪い霊に縛られています、助けてください。解放してください。今 私の娘は縛られていて、自分らしい自分の人生を生きることができていません。助けてください。娘が自分の人生を思い切り生きられるように、どうぞお助けください。」マタイの福音書にもこれと並行する言葉・箇所が出てきます。そこではこの女性は「私を憐れんでください。娘が悪霊に憑かれてひどく苦しんでいます。私をお助けください。娘が縛られている、苦しんでいる、そしてこの私を助け、私を憐れんでください。」

今苦しみがある。私たちの生活の中にも苦しい部分が出てきているかもしれません。1人1人置かれた状況によって違うでしょう。ある人たちは例えばテレビで見た中で言いますと、お店を営業していたけれども「店をたたまなければならなくなった、閉店することにしました」という人がいます。「住む所をなくした」という人がいます。「新しい仕事を探すことになった」という人がいます。また私たち多くはあ

まり出かけないようにしたり人と会うことが減っていたので、社会生活のリハビリ、慣れ始める、もう一度慣れる、ということが必要な状況になっているのではないかと思います。人間関係において、仕事や収入の面において、生活の習慣において、もう一度新しく慣れていかなければならない、リハビリが必要な状態に置かれている。ある人はそういう中でとても苦しい状況に置かれる、そういうこともあります。

ここに聖書に一人の女性が出てきます。イエス様のことを聞いて、そしてイエス様の元に来すぐやってきました、そしてひれ伏してお願いする、願い続けているひとりの女性です。この人はどんな人だったのでしょうか。聖書には26節に彼女は「ギリシャ人でシリア・フェニキアの生まれで、そして娘が汚れた霊、悪霊に憑かれていたので追い出してくださるよう願った」と書いてあります。そしてこの人はイエス様がツロの地方に行った時に出会った人です。ツロの地方の人、この人は女性です。そしてギリシャ人です。つまりこの聖書の世界で言うならばイスラエル人ではない、異邦人、神の民ではない人たちの中の一人だ、ということです。シリア・フェニキアの生まれ、海沿いの地方、イスラエルから北の方、今のシリアその周辺の生まれで、ギリシャ語を話す人で、つまり外国人、異邦人の地から来た人です。ツロの地方にイエス様はこの時行かれたことが書いてあります。その後31節にはツロからシドンを通してデカポリスに行った、という風に書いてあります。ツロとかシドンという言葉、旧約聖書にも出てくる地名です。例えばイゼベルという人がいたのを思い出してくださいかね。預言者エリヤの時代にアハブ王の時にいた王妃です。シドンの出身でその地の偶像をイスラエルの国に持ち込んだ人です。

この女性は地理的にも民族的にも、また性別もかつては男性中心であった社会から言うならば女性でありました。そして宗教もイスラエル人たちの宗教とは別の宗教を持つ地域、その四つの面で、遠い人であったということができるといえるでしょう。彼女はひとこと言えどもともと遠い人だったのです。神様から遠い、神の民から遠いと思われる人でありました。そういう人がイエス様の元に来て一生懸命お願いする、お願いし続ける。一度頼んだだけじゃなくて何度も繰り返し言ったようです。

Ⅲ. 否定から始まる対話

イエス様はどうされたのでしょうか。イエス様はその願いを断ったんですね。イエス様はどんな状況にあったのでしょうか。ちょっと24節から戻って振り返りますと「ツロの地方に行って家に入って誰にも知られたくないと思っておられた」という風に書いてあります。つまりイエス様は一人になりたかった、ということなのかもしれません。でも一人になりたかったのになれなかった。もしかしたらイエス様も休息を必要

としていたのかもしれませんが。でもその休息を破る人としてこの女性が突然現れる、そんな状況です。何度も願いを言うのを聞いてイエス様はもしかしたらしばらく考えていたかもしれません。そして何と言ったのでしょうか。27 節にそのイエス様の言葉が書かれています。イエス様は言われました。「まず子供たちを満腹にさせなければなりません。子供達からパンを取り上げて子犬に投げてやるというのはよくないことです。」イエス様は彼女の求めに応えなかったのです。NO と言ったんですね。でももちろんその NO がどういうことだったか、よく見てよく聞く必要があります。私たちは神様に願い求めることがあります。祈ることがある、その時どんな答えが返ってくるのでしょうか。「わかったそうしてあげよう」神様がイエスと言ってください。

「だめだ。してあげない」NO と言われるということもある。YES とか NO、あるいは待ちなさい、待てと言われることがある。祈りにおいてそういう色々な答えを受け取ります。今皆さんはどんな願いを持っているのでしょうか。そして神様からの答えは何でしょう。イエス様は何と言ったか？「まず子供たちを満腹にさせなければならぬ。」満腹にさせる、十分に食べさせる、ということですね。このマルコの福音書の 7 章の前の章 6 章と、8 章に「満腹した」という言葉が出てきます。どちらもパンの奇跡ですね。最初は 5000 人にパンを与えた奇跡で、6 章 42 節「彼らは皆食べて満腹した。」それから 8 章では 4000 人だったって書いてありますけれども、8 章の 8 節に「群衆は食べて満腹した」十分に食べた。「どこからパンを手に入れて十分食べさせることができるでしょう」この十分食べる、満腹するっていう言葉が今日の箇所 7 章の 27 節にも出てきます。「まず子供たちを満足させる」「まず子供たちに十分に食べさせなければならない」イエス様はこの女性を見て、そうは言っていませんけれども「あなたはギリシャ人ですね、あなたはツロの人ですね、私はイスラエルの民の迷える羊のところに遣わされているのだ、あなたではないんですよ」ということを答えています。ここからさらに、この人とイエス様の会話が続いていきます。対話が深まっていく。今日は「イエス様との対話」という説教題としました。この一人の女性がイエス様と出会って、願って答えてもらえずに、そしてまたお願いして、というその繰り返しの対話を今日はじっくり見ていきたいと思います。そして今度私たちがイエス様との対話をする、イエス様をお願いしてすぐに答えていただけなかったとしても、じゃあその次何と言うか、そういうことを今日は一緒に考えてみれたらと思っています。

IV. 「NO」という答えへの反応

彼女が言うのです。「子犬もパンくずはいただきます。」イエス様はあえてこの女性と対話しようとしたのではないかなっていうふうに思います。なぜならばイエス様がしようと思えば最初に求めてやってきた時点で、一生懸命お願いしてきた時点で、やってあげても良かったわけですね。イエス様にはできたのです。でもすぐにはその願いに答えませんでした。「私の娘を助けてください、私の娘を縛っている悪霊から解放してください」その願いに答えてあげられた、でもすぐに答えなかった。でもすぐに答えなかったことから、対話が始まって深まっていったと思うのです。もしも最初の願いですぐに悪霊を追い出し、悪霊から解放して癒してあげていたならば、28節の彼女の言葉は出てこなかったのではないかと思います。「主よその通りです、あなたのおっしゃる通りです、でもテーブルの下の子犬でも子供たちが落とすパンの屑、パンの小さなかけらはいただくではありませんか。」彼女はそう言いました。イエス様とこの女性との対話の中でイエス様は原則を示します。ここで示されている原則というのは神様の選びの順序ということです。「神様が選んだ民がいる。私はイスラエルの滅びた羊のところにまず遣わされるんだ」ということをイエス様は言うておられる。でもそれでシャットアウトしているわけではありません。「子供達のパンがある、まず子供たちに十分食べさせなければいけない、子供たちからパンを取り上げて子犬に投げてやる、というのはよくない」イエス様はそう言われました。そういうことによつてですね、ある意味ではイエス様が28節の彼女の言葉を引き出しているかのようにも思えるのです。テーブルの下の子犬のイメージを彼女が見つげ出せるように助け舟を出しているようにも見えてくる、これは対話なんだなというふうに思います。一回お願いしてすぐ叶えてもらった、だから感謝。1回お願いして駄目だったからもうダメだ、ということだけではない。私たちとイエス様との間で対話が始まり対話が続いていく、ということなんだ。原則はすでに示されています、私たちにも。聖書の中に、私たちの身体について、私たちの命について魂について、原則が示されている。でも「その原則があるけれども、その限界を超えて神様にはお出来になる、イエス様あなたにはおできになります」という信仰をイエス様が引き出してくださるのではないのでしょうか。すぐに答えないことで、この女性の信仰が引き出されていったように思います。あなたは本当に願ってることは何なのか、私たちにも問われるように思う。私たちが自分のために願い、家族のために願う時、あなたが本当に願うのは何か、本当に大事に思ってることは何なのか、私たちに問いかけてられます。そして「本当に主にはできるとあなたは思うのか」「あなたは信じるのか」それが問われ、また私達にもさらなる信仰が引き出されていくのではないのでしょうか。

彼女は言います。「子犬もパンくずはいただきます、パンくずでも十分なのです、ですからそれをいただきとうございます、あなたの恵みは大きい、十分です。」めぐみに信頼しています。さて彼女は一旦、NO という答えを受け取ったんですね。私たちも NO という答えを受け取ることがあります。一応ここではですね、“一見”NO と言っておきましょう。“一見”NO と見える、“一見”NO と聞こえる答えを神様から受け取る時がある、ということなのです。私たちは何か神様に願ってそれが答えられなかった時にどうするでしょう。この女性は自分の娘のために願ったのに「あなたは外国人である、まあそういう意味でまずイスラエルの子らに食べさせなければならないのだからあなたではないんだ」という風に言われてしまったのです。あなたは第一優先じゃないんだ、ということでもあるでしょう。その時にどうするか、“一見”NO という答えをもらった時に私たちはどういう反応があるのでしょうか。一つは【諦める】って事ですね。「もうだめだ」「お願いしたのにダメだった」「神様答えてくださらなかった」と諦める、願うのをやめる、あるいは神様のところから立ち去る、ということがありえるでしょう。神様が私のこと、私の家族のことを第一優先としてくださらないということがわかった時どうするか。二つ目の可能性は【キレル】と言うか【逆ギレする】ってこともあるんじゃないかと思います。「神様、あなたはひどいです！」神を非難し始める。「神様どうして私のためにはしてくださらないのですか、他の人のためには恵みを与えてと言って、なぜ私にはしてくださらないのですか。なぜ私はあなたにとって第一優先ではないのですか、神様あなたはひどいです、あなたのなさってることは不当です！」と神様を非難し始めてキレル、逆ギレするというようなことも私たちにはありえるんだろうと思います。

V. それでも願う

もうひとつの態度、それはこの女性がしたように【重ねてお願いする】あるいは一度 NO と言われたようであるけれども【それでも信頼する】。「神様あなたのお恵みは十分あります、あなたの恵みは十分に豊かです、子供達の為のパンを一つ取り上げて下さいと言ってるのではありません、子供達にパンを与えてください、私たちは子供が落とすパンのかけら、パンの屑でそれで十分なのです。それでもあなたの恵みは十分です」と信頼して彼女は願っています。彼女は、「あなたじゃないんだよ」と言われてしまったのですけれども、でもイエス様の言葉をよく聞いたと思います。この女性はよく聞いたんですね。この女性はイエス様が言われた言葉を認めて受け入れて尊重しました。「主よその通りです。子犬と子供たちのこと、私はギリシャ人の外国の女です、その通りです」と認めています。その上で、「でも子犬でも子供達が落と

すパンくずはいただきますよね」そうですね、いただけますよね。もしかしたらこの人はユーモアをもって、あるいは微笑をたたえながら言ったかもしれない、と考える人もいますね。この女性はよく聞いたのです。イエス様が、子供達がいるんだからあなたじゃないんだよと言った時に「なんでそんなこと言うんですか!？」と諦めてしまったり怒ったりせずに、イエス様の言うことをよく聞いて、受け止めて、その言葉で返しています。それからもう一つ、この人は小さな一つの言葉を聞き逃さなかったと思います。それは“まず”っていう言葉です。もしイエス様が言われた 27 節の言葉に“まず”という言葉がなかったらどういう意味になるのでしょうか。もし“まず”という小さなひとことがなかったらどうでしょう。「子供たちを満腹にさせなければならないのだ、子供たちのパンを取り上げて子犬に投げてやることは良くない」“まず”がなければ完全な NO ですよね。あなたの求めに応えることはできませんという「完全な NO」ってことになります。でもここに“まず”があるんです。“まず”最初に、“まず”初めに、子供達に食べさせなければならないんだ。そのために NO なんだ。つまり条件付きの NO ってことですね。条件付きの NO だってことは、逆に言えば条件付きのイエスだっていうことです。「まず子供たちに食べさせなければならない」でもそれができたら「子供が十分食べたら子犬達にもあげられる」そういうことなんですね。この女性は小さな“まず”というひとことをちゃんと聞きました。この 27 節の子供達と子犬の話は小さな小さな例え話のようなものだって言われるんですけども、だいたい聖書・福音書に出てくる例え話を聞いた人は、理解できないのです。ほとんど理解してないことが多いんですね。弟子たちもよくわからない。でもこの女性は聞いて理解した人だと言われます。イエス様の話、イエス様のたとえ話を聞いて理解した最初の人だ、とさえ言われるのです。この女性は“まず”という小さな言葉をちゃんと聞きました。そして子供たちのこと子犬のことを理解しました。もしかしたらイエス様はこの女性はちゃんと聞ける、ちゃんと理解できる人だと信頼してこのような言葉をかけたのかもしれませんが。この人は言います。「パンくずで十分です、主よその通りです」と言います。その上で、「でもあなたにはおできになります」聞いたことに応じてまた願うのです。私たちも一旦 NO のような答えを受け取っても、神様がくださる答えをきちんと聞いて、見逃さずに聞いて、そしてそれに応じてまた願いましょう。

「子供が落とすパンくずで十分です、あなたには恵みは十分あります。」イエス様が再び答えてくださいます。そこまで言うのなら、と言うんですね。これは「あなたのこの言葉のゆえに」ということです。「あなたのこの言葉のゆえに、そうしようではないか。家に帰りなさい、悪霊はもう出ていきましたよ」と言ってくださった。その通りに娘は解放されていたのです。イエス様が「あなたの言う通りだ、あなたのこの

言葉のゆえにこうしよう」と言ってくださった。「そうしよう」と言ってくださった。イエス様も「その通り」と答えている。女性はイエス様の言った言葉に「その通りです」と答え、イエス様もこの女性に「その通りです」と答えておられる。お互いに、「その通りだ、あなたの言う通り」という会話、対話だったので。

6. あなたは何を願うか？

今日私たちは人生の危機にあるかもしれません。今私たちはこの社会が変わり、これからどうなるか分からない。だんだん礼拝堂に集まるようになってきました。学校も始まっている。そういう中で、まだまだ感染が広がるかもしれないという危機にある。今全員が一つの同じ危機の中にあると言えるでしょう。同時に一人一人が個別の危機の中に置かれてもいます。今日人生の危機にあるならば、そこで何を願うでしょうか。女性は「この幼い娘が縛るものから解放されて、自分の人生を生きられますように」と願いました。あなたなら何を願うでしょうか。今日はそれを「自分の願ってなんだろう、自分のため家族のために願うことなんだろう」それを見つめて突き詰めてみて、イエス様にぶつけてみましょう。健康でしょうか、生活の安心でしょうか、人間関係でしょうか。家族がこうなってほしい、家族にこういうものを残したい伝えたい、それはこれだと言うとすれば何を願うでしょうか。「イエス様、パンくずで十分です。あなたの恵みはわずかの小さな欠片でもそれで十分です。大きなことは願いません、小さなかけらで十分です。それで私の家族はやっていけます。私と私の家族のために、あなたの恵みをお与えください。」突然ウイルスが私たちを襲い、私たちの命が終わる日が近づくかもしれない。そういう可能性がある今日のこの状況の中、私達は何を大事に思ってるのか、家族のために何を願うのか、家族のために何が残っていくことを願うのか、それをイエス様に伝えましょう。「私の大事な願いはこれなのでした。」私たちもこの女性に続いて自分の訴えをイエス様にぶつけて、失望せずに恵みを受け取りましょう。「私の願いはこれです、私が一番大事に思ってることはこれなのです」と、イエス様にそれを伝え、また大事な人身近な人にそれを伝えていきましょう。この女性から異邦人への恵みの扉が開きました。神様の救い、神様の恵みは一つの民族イスラエル人達に限定されることなく、造られたすべての人に開かれて注がれていくようになりました。それがここで見えてきたのです。やがてこの後開かれようとしている恵みの扉の先駆けとして、この女性はめぐみに入れられました。全世界の人たちにその恵みの扉が開かれる、救いは全世界に及ぶようになり私達日本人にも届くようになりました。その先駆けとして、この女性から扉が開かれていったのです。一つの御言葉を読みたいと思います。コリント人への手紙の第2の12章9

節、お読みします。「しかし主は、私の恵みはあなたに十分である、私の力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。パウロは自分の肉体のトゲを去らせてくださいと3度願いました。でも主は言われたのです。「私の恵みはあなたに十分だ、私の力は弱さのうちに完全に現れるのだ」だからパウロは言いました。「私はキリストの力が私を覆うためにむしろ自分の弱さを誇ります。」あなたが自分の弱さを誇る時、ありのままを晒す時、キリストの力があなたを覆います。あなたの弱さ、欠け、恐れの中にキリストが働きます。キリストの力があなたを覆います。「私の弱さはこれだ、でもキリストの力が覆ってくれる、そのことが私の願いだ、これを知っておいてほしい」大切な人に伝えていきましょう。恵みは圧倒的だ、恵みは十分だと、信じるならば自分の残りの人生に何を願うでしょうか。自分の家族のためには何を願うでしょうか。自分の心の声を聞き、それを恵みの主にぶつけましょう。諦めずにイエス様と対話して「これだけは叶えていただきたいのです」それを伝えましょう。私達も主のもとに来てひれ伏して願いましょう。私のために、私の家族のために「これをしてください。主よ、私を憐れんでください、私の家族を助けてください、主よ、あなたにはおできになります」と申し上げましょう。

7. 終わりの祈り

お祈りを捧げます。

主よ、私の娘が悪いものから解放されて自分を取り戻し自分の人生を思い切り生きられますように、シリア・フェニキアの女性が願ったように、私達も家族のために願います。助けてください。苦しむ私を助け憐れんでください。今ひとりひとり願いを、求めを携えて、苦しみながらあるいは悩みつつ、恐れている私たち一人一人を助けてください。あなたの恵みは十分あります。本当に願ってること、本当に大事なことに心を向けることができますように。神の無限の豊かな恵みによって私たちを包み、圧倒的なあなたの恵みに信頼して生きることができるよう、私と私の家族を助けてください。教会の家族を、この町この国の人たちを、あなたの大きな恵みで包み、助け導いてください。主イエス・キリストによってお祈りします。アーメン。